

彼方「かなた」

校長通信
H26.2.24
Vol:36

【キャリア教育ってなあに？】

先月末に、キャリア教育地区別協議会が、本校を会場に開催されました。地域で職場体験を受け入れていただいた事業所さんや湖北台中区、湖北中区の小中学校の校長先生、担当の先生方、我孫子市教育委員会の方々が集まって、今年度の職場見学や職場体験の取り組み、要望等について話し合われました。

担当の先生方を代表し、湖北小学校と湖北中学校の実践について紹介されました。本校の二年生担当、篠田先生の発表も楽しい発表でした。生徒、保護者、事業所にアンケート調査を実施し、その結果を考察したものでした。「子どもと家できちんと将来について話したことがなかったのでよい機会となりました。」という保護者の意見も紹介されていました。

そこで、今回は「キャリア教育」について少し考えてみたいと思います。

文部科学省は「キャリア教育」を次のように定義しています。「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」(キャリア発達とは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程)業界用語なので仕方ないとは思いますが、理解するにはなかなか難しい表現です。もう少し柔らかく言うと、「子どもが社会で働いて自立するために必要な力を育みながら、自分の役割を果たすことや自分のよさを引き出すことを目指

す教育」となるでしょうか。

では、何が問題で「キャリア教育」の重要性が叫ばれているのでしょうか。それは、厳しい就職活動乗り越えたにも関わらず、大卒の三分の一(十数万人にも及ぶ人数)の学生が、三年以内に離職していたり、ニートやフリーターの問題もなかなか改善されなかったりしているからでしょうか。離職率については、よく七五三と言われていますが、中卒、高卒、大卒の三年以内の離職率が、それぞれ七割、五割、三割にもなるのだそうです。その理由が、「こんなはずじゃなかった」「もっと自分にあつた仕事があるはず」というのがほとんどだそうです。そこで次のような課題がはっきりしてきました。

- 進路選択に対する目的意識の希薄さ
- 「働くことの喜び」を伝えることの重要性
- 「世の中の事態や厳しさ」を伝えることの重要性
- 「働くことの喜び」と「世の中の事態や厳しさ」の両面を同時に伝えることの重要性
- 「なぜ学ぶか」を学ぶことの重要性

これらのことをもっと意識して、教育を考えていかなければならない時代になったのです。

思い通りにならなくても事実から目をそらさず、解決の糸口を探し、行動する生徒を育成しなければならぬのです。それには、大人が「世の中は、なかなか思い通りにならない。でも、目標を持って取り組むことで確実に夢に近づくことはできる」ということを伝えていかなければならないのです。

三年生と入試の面接練習をする中で「学校生活で一番頑張ったことは何ですか?」という質問に、多

くの生徒が部活動や行事について話してくれます。練習がきつかったことやみんなと心を一つにして頑張れたことなどを笑顔で語ってくれます。このような中学校生活そのものが、実はとても大切なキャリア教育なのです。

勉強時間を増やして取り組まなきゃ、生活態度ももっと良くしていこう、学級の人々とも最後なので思い出をつくりたい、まだ進路が決まっていない人がいるから勉強会をしたい、昼休みも大切に過ごしたい、等々、ゴールが見えてきた三年生から沢山の言葉が聞かれるようになりました。「今抱えている問題を何とかしたい。自分ができることは?みんなやれることは?」と考えて一生懸命取り組んでいることが、まさにキャリア教育なのです。生徒会や委員会が二年生を中心に取り組んでいる「学校生活向上プロジェクト」も同様です。

難しい言葉で教育することも必要ですが、シンプルで分かり易い、昔から地域の大人が子どもたちに声をかけて育ててきたことを改めて意識しなければならぬと強く思います。あいさつをすること、人を思いやること、嘘をつかないこと、約束を守ること、自分から動くこと、諦めないで最後まで責任を持つこと、公共のものを大切にすること、食べ物を粗末にしないこと、等々、こういったことをもう一度、家庭や学校で教え、育てていくことがキャリア教育なのです。

「あなたの良さは何ですか?」「ハイ!○○です!」卒業後の進路に向けて自分の良さを、胸を張って話す生徒が沢山いることに心が躍ります。